

学科基礎科目の目次 (平成29年度以前入学生用)

このシラバスは、旧カリキュラム(14E～17E)の科目区分別に編成されています。13E以前の学生が旧カリキュラムの科目を履修する場合には、当該科目が旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

また新カリキュラムのスタートにより、一部科目の名称が変更となっています。履修する場合には、当該科目が旧カリキュラムまたは旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

経済学科

統 計 学 ……	1	経 済 と 数 学 ……	2
ミ ク ロ 経 済 学 II ……	3	マ ク ロ 経 済 学 II ……	4
政 治 経 済 学 I ……	6	計 量 経 済 学 I ……	7
経 済 政 策 I ……	8	社 会 政 策 A ……	9
財 政 学 A ……	10	金 融 論 I ……	11

経営システム学科

経 営 戦 略 論 A ……	12	原 価 会 計 論 ……	13
経 営 学 原 理 ……	14	リ ス ク と 保 険 ……	16
経 営 組 織 論 A ……	17	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 A ……	18
流 通 シ ス テ ム 論 A ……	19	会 計 学 総 論 ……	20
管 理 会 計 論 ……	22		

地域社会システム学科

政 治 学 概 論 ……	23	グ ロー バ ル 社 会 概 論 ……	24
人 間 論 ……	25	日 本 社 会 経 済 史 ……	26
社 会 と 言 語 ……	28	ま ち づ ぐ り 論 ……	30
外 国 語 演 習 I (英 語) ……	32	外 国 語 演 習 I (ド イ ツ 語) ……	34
外 国 語 演 習 I (フ ラ ン ス 語) ……	35	外 国 語 演 習 I (中 国 語) ……	37
外 国 語 演 習 I (韓 国 語) ……	38	エ コ ツ ー リ ズ ム 論 ……	39

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310151) 統計学 Statistics	科目区分	時間割 後期末5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 大野 拓行	関連授業科目	統計学入門、情報リテラシー	
	履修推奨科目	統計学入門	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 統計学入門を履修済みの学生に対して、統計的仮説検定、クロス集計表の分析、相関・回帰分析などを講義し、統計学入門と合わせて、統計的分析手法を一通り学習させる。2年次配当の計量経済学、3年次配当の経済統計を履修する際に前提となる授業である。			
授業の目的 統計学入門で学んだ記述統計と推測統計の基礎をもとに、それを発展させた内容を学習することで、データの持つ情報を読み取り判断の拠り所を得るための方法をより詳しく理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・正規分布を用いた推定、検定を習得する。 ・t分布を用いた推定、検定を習得する。 ・クロス集計表による分析を習得する。 ・独立性のカイ2乗検定を習得する。 ・相関分析を習得する。 ・単純回帰分析を習得する。 			
成績評価の方法と基準 演習、Moodleの小テスト、期末試験などを総合的に見て評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) 統計学入門の復習 (記述統計) (2) 統計学入門の復習 (正規分布と中心極限定理) (3) 仮説検定の基本概念 (帰無仮説、検定統計量、有意水準、棄却域) (4) 正規分布を用いた仮説検定 (5) t分布 (6) t分布を用いた推定と検定 (7) カイ2乗分布と検定 (8) 検定に利用されるExcel関数 (9) クロス集計表による分析 (特化係数) (10) 独立性のカイ2乗検定 (11) Excelによる実習 (12) 相関分析 (13) 単純回帰分析 (14) Excelによる実習 (15) まとめ			
【自学自習に関するアドバイス】 練習問題を丁寧に解くこと。			
教科書・参考書等 特に使用しない。講義用資料をMoodleに掲載する。			
オフィスアワー 火曜日 4限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業内容は連続しているので、欠席すると理解できなくなります。 Moodleを利用します。			

ナンバリングコード B3ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310131) 経済と数学 Economics and Mathematics	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 ラナデ	関連授業科目	ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目	
	履修推奨科目	履修にあたって必要とされる科目はありません。	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経済学ではツールとして数学が積極的に活用されています。しかしこの点が経済学を学習する際の障害になる場合も多いようです。そこでこの講義では、経済学を学習するための数学的トレーニングとして線形代数の基本的内容を、経済学における活用例を素材に学びます。 高校数学の復習から始め、経済学では数学をどのように使うのかを例を交えながら解説します。			
授業の目的 授業の目的・達成目標 1. 線形代数の基本的内容の学習を通じて、経済学における記号・数式・グラフの使い方を身につけること。 2. 数学への苦手意識がある人は、それを解消すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 直線について問題をとける。 2. 行列は専門的につかえる。			
成績評価の方法と基準 宿題&class-work (4割) と期末試験 (6割) により評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業及び学習の方法 授業は主に板書によります。宿題&class-workとして演習問題を課します。 予習は不要ですが、毎回復習してわからないことをなくすことと、演習問題を解くことが必要です 1. 産業関連表 (2回) 2. ベクトルと行列 (4回) 3. 逆行列と連立方程式 (4回) 4. 行列の固有値 (3回) 5. 行列ゲームと線形計画法 (2回) 6. まとめ (1回) 進行状況により、変更をする可能性があります			
教科書・参考書等 教科書は使用しませんが、参考書は以下のものです。 石村園子 (2000) 『やさしく学べる線形代数』 共立出版。 その他参考書については開講時に紹介します。			
オフィスアワー 毎日18時以降			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の注意は初回授業で説明します。			

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312411) ミクロ経済学Ⅱ Microeconomics Ⅱ	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ	
	履修推奨科目	経済数学基礎、経済数学、ミクロ経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部で開講される様々な科目が、ミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています。 ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体の行動に焦点をあてた分析を行います。すなわち、個々の家計や企業がどのように経済活動にかんする意思決定を行い、これらの経済主体の間にもどのような相互関係があるのかを考察します。とりわけ、この相互関係において「市場（マーケット）」が果たす役割を考えます（これに対しマクロ経済学は景気や失業率など国全体の経済に焦点をあてます）。 ミクロ経済学ⅠとⅡでミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします。後半の本講義では、(1)企業の行動、(2)一般均衡分析、(3)ゲーム理論と不完全競争、(4)市場の失敗、の各トピックを扱います。			
授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解する。特に、企業の行動、一般均衡分析、ゲーム理論と不完全競争、市場の失敗の各トピックを習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動が市場価格にどのように反応するか説明できる。 ・市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを、簡単な一般均衡の枠組みを用いて説明できる。 ・戦略的状況とはいかなるもので、そこでプレイヤーがどのような行動をとると考えられるか、ゲーム理論的手法を用いて説明できる。 ・市場の失敗とはいかなるもので、その解決のために経済政策がどのように有効となるか、ミクロ経済学の観点から説明できる。 			
成績評価の方法と基準 宿題（30%）、期末試験（70%）により評価します。詳しくは初回授業時に指示します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業資料をMoodleで公開するので、各自印刷し持参してください。授業は主に資料とプロジェクタ投影を用いて進めていきます。宿題として演習問題を課します。 予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。 また、単に授業内容を学習するのみではなく、ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち、授業内容との関連性を自ら考える姿勢が求められます。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の行動（4回） （キーワード：生産関数、利潤最大化、総費用曲線、可変費用曲線、損益分岐点、操業停止点） 2. 一般均衡分析（3回） （キーワード：エッジワースボックス、パレート効率、契約曲線、厚生経済学の基本定理） 3. ゲーム理論と不完全競争（4回） （キーワード：戦略、ナッシュ均衡、クールノー競争、ベルトラン競争、後ろ向き帰納法） 4. 市場の失敗（3回） （キーワード：外部性、社会的限界費用、コースの定理、ピグー税） 5. まとめ（1回） 			
回数はおおよその計画であり、進行状況によっては若干の変更をする可能性があります。			
教科書・参考書等 特定の教科書は指定しないが、下記の書籍等から自分の好みのものを1冊以上選び、講義と並行して精読すること。 芦谷政浩『ミクロ経済学』、有斐閣、2009年、3100円＋税 神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014年、3200円＋税 その他は初回授業時に指示します。			
オフィスアワー 月曜日4時限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容は連続しているため、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。 2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。 			

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312412) マクロ経済学Ⅱ Macroeconomics Ⅱ	科目区分	時間割 後期金3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮崎 浩一	関連授業科目	マクロ経済学I、応用マクロ経済学、財政学、金融論、経済政策、国際経済学	
	履修推奨科目	経済学入門、経済数学入門	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 経済学における2つの柱（ミクロ経済学とマクロ経済学）の1つであるマクロ経済学について学びます。ミクロ経済学では、個人や個々の企業の経済活動などを分析しますが、マクロ経済学では、個人や個々の企業の経済活動が集計された一国全体の経済活動に注目します。例えば、「景気が悪くなった場合、どのような政策を国はとるべきか？」や「なぜある国は富み、ある国は貧しいのか？」というような疑問にマクロ経済学は答えを与えようとする学問です。マクロ経済学Iとマクロ経済学IIを通じて、マクロ経済学の基礎の部分を講義する予定です。			
授業の目的 世の中には日本や諸外国の経済状況や経済政策に関するニュースで溢れています。この講義を受講することでそのようなニュースを正確に捉えることができるようになり、経済はどのように動いているのかを自分で判断するのに役に立つでしょう（DPの「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」）。また、今後、マクロ経済学関連の科目（応用マクロ経済学、財政学、金融論、経済政策、国際経済学など）を履修する際にこの講義で学んだ知識が役に立つでしょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・国内総生産と金利がどのようにして決定されるとマクロ経済学は考えているか説明できるようになる。 ・総需要・総供給モデルを用いて物価がどのように決まるか説明できるようになる。 ・インフレ、デフレとは何か、それらの社会的な費用は何か説明できるようになる。 ・為替レートとは何か説明でき、その決まり方について説明できるようになる。 			
成績評価の方法と基準 2回のクラス内中間試験（各25%）と期末試験（50%）で判断します。中間試験は第6回と第11回の講義内で行い、講義の後半45分程度を使用する予定です。また、ボーナスとして課題をいくつか出すかもしれません。ただし、受講状況に応じて変える可能性があります。詳細は初回の講義の時に説明します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義はスライド、ハンドアウトと板書を使用する予定です。講義前には、当日の講義のレジュメまたはスライドをホームページ(Moodle上)に作成予定) 上で配布する予定です。 5～6回程度の提出不要の練習問題がホームページ上で配布されるので、講義の復習と試験の準備に役立ててください。以下に講義計画を挙げます。なお、以下の講義計画は進行状況により変更する可能性があります。			
第1回：ガイダンス、国内総生産と金利の決まり方 (1) 第2回：国内総生産と金利の決まり方 (2) 第3回：国内総生産と金利の決まり方 (3) 第4回：国内総生産と金利の決まり方 (4) 第5回：国内総生産と金利の決まり方 (5) 第6回：総需要・総供給と物価の決まり方 (1)、中間試験1 第7回：総需要・総供給と物価の決まり方 (2) 第8回：総需要・総供給と物価の決まり方 (3) 第9回：総需要・総供給と物価の決まり方 (4) 第10回：総需要・総供給と物価の決まり方 (5) 第11回：インフレとデフレ (1)、中間試験2 第12回：インフレとデフレ (2) 第13回：為替レートの決まり方 (1) 第14回：為替レートの決まり方 (2) 第15回：為替レートの決まり方 (3) 第16回：期末試験			

【自学自習に関するアドバイス】

- ・講義内容は積み上げ式なので、わからない箇所が出てきたら、なるべく早く疑問を解決するように心がけてください。後回しにするとわからない部分がどんどん増えてしまいます。解決方法としては、いろいろとあると思いますが、講義担当者やよく理解しているクラスメートに聞くのが手っ取り早いと思います。
- ・提出不要の練習問題が出ますので、それを利用してしっかり復習してください。中間試験や期末試験前にまとめてやるのではなく、配布されたらできるだけ早めに手を付けましょう。
- ・経済ニュースを読む習慣を付けましょう。この講義で学んだことを利用してニュースに書かれてあることが理解できるかどうか、チェックしてみましょう。

教科書・参考書等

教科書は

平口良司、稲葉大『マクロ経済学：入門の「一歩手前」から応用まで』有斐閣ストゥディア、2,000円＋税
です。その他、参考書として

- ・伊藤元重『マクロ経済学』第2版、日本評論社、2,800円＋税
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第5版）、有斐閣アルマ、2,200円＋税
- ・マンキュー『マクロ経済学1：入門編』（第4版）、東洋経済新報社、3,800円＋税
- ・斎藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久『マクロ経済学』有斐閣、3,900円＋税
を挙げておきます。

オフィスアワー

毎週木曜日2時間目と3時間目に、南2号館3階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールでアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・授業中、私語は厳禁ですが、質問やコメント等の発言は積極的にしてください。講義が楽しくなります。また、あなたの質問がみんなの理解を深めることになります(あなたの持つ疑問は、大抵、他の受講者も疑問に思っています)。
- ・中間試験の追試は行わない予定ですので、忘れないように受験してください。
- ・授業時間中のスマホや携帯電話の使用は禁止します。

ナンバリングコード B2ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312031) 政治経済学 I Political Economy I	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学Ⅱ	
	履修推奨科目	政治経済学Ⅱ	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 マルクス経済学の方法に基づき、資本主義の原理についての基礎的な講義を行なう。資本主義とは、市場を中心とした経済システムである。このような経済システムは普遍的なものではなく、資本主義以前には、市場は社会の付属物にすぎなかった。資本主義は、歴史上のある時点で成立した特殊な経済システムなのである。たとえば、店頭に並んでいる商品や財布のなかの貨幣は、一見すると、当たり前のあるふれたものに見える。しかし、資本主義を特殊歴史的なシステムとして捉えるならば、決して自明のものでないことが分かってくる。この講義では、商品、貨幣、資本などの資本主義の諸要素を当然の前提とするのではなく、「なぜ商品には価格がつくのか」、「市場に貨幣が存在する理由は何か」、「資本はどのようにして利潤をあげることができるのか」といった一見単純だが、決して簡単ではない問題についてじっくりと考えていく。			
授業の目的 われわれが目目の当たりにする現実の資本主義は、きわめて複雑である。本講義では、マルクス経済学の基礎的知識を習得すると同時に、この複雑さの背後にある資本主義の基本構造を理解するために必要な抽象的思考力の獲得を目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・マルクス経済学の方法上の特徴を述べることができる。 ・マルクス経済学の基本的概念を説明することができる。 ・剰余価値の発生メカニズムを論理的に説明することができる。 			
成績評価の方法と基準 小テスト(2回)と期末試験によって評価を行なう。配点は、小テスト各10点、期末試験80点とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 板書および口述筆記による。 0. ガイダンス(政治経済学とは何か)(1回) 1. 政治経済学の対象と方法(2回) 2. 商品とは何か(1回) 3. 貨幣の機能(2回) 4. 資本の形式(2回) 5. 労働と生産(2回) 6. 価値形成・増殖過程(2回) 7. 剰余価値の生産(2回) 8. 資本主義的生産方法(1回) 期末試験 【自学自習について】 自筆ノートおよび授業後web上に掲載する講義概要に基づく復習が中心となる。			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は初回時に紹介する。			
オフィスアワー 初回時に指定する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 「政治経済学Ⅱ」を併せて受講することを強く推奨する。			

ナンバリングコード B2ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312111) 計量経済学 I Econometrics I 計量経済学入門	科目区分	時間割 前期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学入門, 統計学, 経済学入門, 経済と数学	
	履修推奨科目	統計学入門, 統計学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 計量経済学 (Econometrics) の基礎について講義する。経済理論 (仮説) が、現実の経済の動きをうまく説明しているかどうか検証するための統計学的手法を身につける。			
授業の目的 計量経済学の基本的な考え方を習得し、実際の経済統計データを使って計量経済分析ができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 基本統計量, 散布図と相関係数を理解する。 回帰モデルと最小2乗法の考え方を理解する。 Excelを使って回帰分析ができるようになる。 			
成績評価の方法と基準 期末試験 (100点満点) による。課題レポートや宿題を課す場合は、それらの得点を期末試験得点に加算した総合得点が60点以上を合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【講義の方法】 講義ノートによる板書講義。教科書はその都度参照する。配布資料を使って説明する場合がある。宿題を課す場合がある。</p> <p>【講義計画】 第1回: 計量経済学とは何か 第2回: 経済統計データについて 第3回: データの整理 (1): 基本統計量: 平均, 分散ほか 第4回: データの整理 (2): 散布図と相関係数 第5回: 最小2乗法: 散布図への回帰直線のあてはめ 第6回: 最小2乗法: 最小2乗推定量 第7回: 回帰分析の各種指標 (1): 決定係数 第8回: 回帰分析の各種指標 (2): t-値 (t-検定) 第9回: 単回帰モデルの推定: 実証分析の進め方 第10回: モデルの仮定と最小2乗推定量の性質 第11回: 回帰分析の各種指標 (3): 自由度修正済み決定係数 第12回: 回帰分析の各種指標 (4) 誤差項の系列相関とダービン・ワトソン検定 第13回: 単回帰モデルから重回帰モデルへ 第14回: 重回帰モデルの推定 第15回: 授業の総括と計量経済学Ⅱへ向けて [期末試験]</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 予習はしなくていいが、授業中取ったノートをもとに授業内容を復習すること。宿題を出す場合があるが、それは予習ではなくもっぱら復習の手助けになるものとする。</p>			
教科書・参考書等 教科書: 『入門計量経済学』 山本拓・竹内明香著 新世社 定価2500円+税 参考書: 随時指示する。			
オフィスアワー 火曜日 4限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 統計学入門, 統計学の単位を取得している方が望ましい。 2. 質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること。 3. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を禁止する。			

ナンバリングコード B2ECN-bcdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 312123) 経済政策 I Economic Policy I	科目区分	時間割 前期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目	経済政策II	
	履修推奨科目	政治経済学I	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経済政策の基本的な枠組みについて解説する。 受講者は、本講義と並行して、政府や国会、日本銀行などで、どのような政策の発動が議論されているか、ニュースに注意を払うことが望ましい。 アクティブラーニングを導入し、授業内容への深い理解に結び付けるためのグループ討論を行なう。座席を指定席とするので指示に従うこと。			
授業の目的 経済政策の基礎を理解することを目的とし、さまざまな疑問に対する回答を、自ら導き出せるようにする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済政策の基礎について説明できる。 2. 政府の役割や機能について説明できる。 3. 経済政策の課題について説明できる。			
成績評価の方法と基準 グループワークへの取り組み20点、レポート20点、小テスト10点、期末試験50点の合計100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画 <p>板書筆記・口述筆記による。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済学と経済政策 (2) 経済学とは何か (3) 経済政策とは何か (4) 経済政策を理解するためのキーワード(国民経済計算) (5) 経済政策を理解するためのキーワード(雇用統計) (6) 政府を概観する (7) 政府の役割 (8) 市場の失敗 (9) 政府の失敗 (10) 政府の課題 (11) 日本経済をめぐる課題 (12) 長期不況とデフレ経済 (13) 長期不況からの脱出 (14) 経済政策をめぐる諸問題 (15) 新時代の経済政策 <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習に関するアドバイス <p>講義毎に、指定教科書の該当範囲を指定するので、講義前に教科書を熟読し、予習をすること。加えて、講義後にレポートを課すので、講義内容を振り返り、復習し、まとめ・疑問・感想などを取りまとめて提出すること。</p>			
教科書・参考書等			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 田代洋一・萩原伸次郎・金沢史男編『現代の経済政策 (第4版)』有斐閣ブックス, 2011年, 2900円。 ・参考書 経済辞典として、金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版、を指定する。 			
オフィスアワー 火曜日IV時限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 大規模教室におけるアクティブラーニングで学修します。授業に積極的に関わってください。			

ナンバリングコード B2ECN-badE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312131) 社会政策A Social Policy A	科目区分	時間割 後期末2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 badE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 佐藤 忍	関連授業科目	社会政策B	
	履修推奨科目	経済政策、財政学、福祉経済論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
<p>授業の概要</p> <p>私たちはこれからいろんな試練を乗り越えなければならない。まず最初に、就職という難関が待っている。希望どおりに就職できたとして、今度は厳しい競争社会のなかで生活の糧を稼がなければならない。死ぬまで働き続けるわけにもいかない。老後はどうする？</p> <p>私たちは生活上の諸問題をいろんな手段で解決しなければならない。自分自身で処理できることもあれば、他者の助けを必要とすることもある。市場経済による処理はそのひとつである。家族、仲間、企業などの内部における相互扶助もある。そして政府も一定の枠組みを提供している。社会政策とは、生活上の諸問題を処理するための社会的な働きかけであり、仕組みである。</p> <p>この社会政策Aでは、社会政策(Sozialpolitik)という政策概念について、歴史と現状の両面から、講義する。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>社会政策とは、「生きる」「働く」「老いる」といった私たちの生活のあり方を根底から規定する諸政策の総称である。この授業は、社会政策の史的展開を踏まえて今日的課題を探求することを目的とする。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<p>1. 生活保護の仕組みを説明できる。</p> <p>2. 現代の貧困について自分のこととして理解できる。</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>練習問題(宿題)、期末試験等に基づき総合して評価する。</p>			
<p>授業計画並びに授業及び学習の方法</p> <p>口述筆記と板書による。</p> <p>ガイダンス.....(1)</p> <p>I 社会政策とは</p> <p>(1) 社会というもの.....(2)</p> <p>(2) 政策という働きかけ.....(3~4)</p> <p>II 社会政策の諸領域</p> <p>(1) 生きる</p> <p>1. 救貧法.....(5~6)</p> <p>2. 公的扶助.....(7~8)</p> <p>3. 現代の貧困.....(9~10)</p> <p>(2) 働く・老いる</p> <p>1. 工場法.....(11)</p> <p>2. 最低賃金.....(12)</p> <p>3. 社会保険.....(13~14)</p> <p>まとめ.....(15)</p> <p>香川労働局の講演のほか、現在の身の回りの社会問題に関連するビデオ鑑賞を適宜授業の進行に合わせて組み入れる。</p>			
<p>教科書・参考書等</p> <p>使用しない。</p> <p>小川喜一編『社会政策の歴史』有斐閣、1977年。</p> <p>玉井金五・大森真紀編『新版 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2004年。</p> <p>成瀬龍夫『総説 現代社会政策』桜井書店、2006年。</p>			
<p>オフィスアワー 火曜3時限目</p>			
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p> <p>現実の身のまわりの生活の中に様々な形で社会政策が滲透していることを、そして同時に様々な問題を抱えていることを実感し、確かめながら、受講してください。</p>			

ナンバリングコード B2ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312141) 財政学A Public Finance A	科目区分	時間割 後期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 長山 貴之	関連授業科目	財政学B	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰおよびマクロ経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 財政学は租税論、公債論、予算論、経費論、財政政策、地方財政論などから構成されるが、この講義は主として租税論を取扱う。詳細な理論的分析ではなく広範な制度的解説を行うことを心掛ける。具体的には、我が国の基幹税の仕組みを一通り教える。例えば、所得税、相続税、贈与税には累進税率が、法人税には比例税率が、それぞれ採用されている。また、消費税には比例税率が採用されているが、所得に対する逆進性がある。なお、この講義はミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎的知識を前提にする。			
授業の目的 租税に関する主要な制度を理解する（DPの「知識・理解」に対応）と共に、それらの制度が抱える課題を探究できるようになる（DPの「問題解決・課題探究能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 租税に関する主要な制度を説明できる。 (2) 租税に関する主要な制度が抱える課題を分析できる。			
成績評価の方法と基準 期末課題および期末試験。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業方法】 資料を配付し、板書で補足する。 【授業計画】 (1) 租税の概念 (2) 日本の税制 (3) 所得税Ⅰ (4) 所得税Ⅱ (5) 所得税Ⅲ (6) 所得税Ⅳ (7) 所得税Ⅴ (8) 法人税Ⅰ (9) 法人税Ⅱ (10) 消費税Ⅰ (11) 消費税Ⅱ (12) 消費税Ⅲ (13) 相続税 (14) 贈与税 (15) まとめ			
教科書・参考書等 なし。			
オフィスアワー 月曜日 3時限目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語厳禁。			

ナンバリングコード B2ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312151) 金融論 I Monetary Economics I	科目区分	時間割 前期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	金融論 II	
	履修推奨科目	金融論 II、金融政策 I・II	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 この授業では、教科書に沿って、大きく、貨幣と金融取引、取引費用に対処する金融の仕組み、金融機関について学ぶ。具体的には、貨幣と決済、金融とその機能、取引費用とリスク、情報の非対称性と返済のリスク、流動化・証券設計・情報生産や担保・保証や分散化などの金融の仕組み、そして金融機関の1つである金融仲介機関について学ぶ。適宜、世間で話題になっているホットトピックを「現実の金融問題」として紹介する。			
授業の目的 ・貨幣と決済について理解する。 ・金融とその機能について理解する。 ・取引費用に対処する金融の仕組みについて理解する。 ・金融仲介機関について理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣と決済について説明できる。 ・金融とその機能について説明できる。 ・取引費用に対処する金融の仕組みについて説明できる。 ・金融仲介機関について説明できる。 			
成績評価の方法と基準 中間試験94点・期末試験94点、感想文12点の合計200点満点で評価する(ただし中間試験を受けていても、期末試験を放棄した学生は成績評価の対象としない)。定期試験では、教科書からの出題は、重要語句や重要な論点を理論的に自分の言葉で説明できることを中心に要求する。現実の金融問題からの出題は、その出来事の流れを理解していること、またそれらと教科書の内容との関連性を説明できることを要求する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的に教科書の要点を板書しながら説明する。現実の金融問題については、ビデオやパワーポイントで説明し、学生に感想を書いて提出してもらう。 第1・2回 ガイダンス、貨幣と決済 第3・4回 金融とその機能 第5回 取引費用とリスク 第6回 情報の非対称性と返済のリスク 第7回 金融の仕組み(1) 流動化 第8回 中間試験 第9回 金融の仕組み(1) 証券設計、情報生産 第10回 金融の仕組み(2) 担保、保証 第11・12回 金融の仕組み(3) 分散化 第13・14回 金融機関(1) 金融仲介機関 第15回 まとめ、予備日 上記の内容に加えて、適宜、現実の金融問題を盛り込む予定である。 (以上は大まかな予定であり、小さな変更の可能性はある) 【自学自習に関するアドバイス】 ・予習・復習として教科書の相当部分を熟読する。 ・現実の金融問題の際に配布した資料と教科書の関連性を考え、さらに詳しい情報を自分でも調べてみる。			
教科書・参考書等 (教科書) 内田浩史(2016)『金融』有斐閣、3400円(税別)。金融論 I ではこの本の第1章～第8章までを取り扱う予定である。また金融論 II (後期開講) でも同じ教科書を用い、残りの章を取り扱う予定である。			
オフィスアワー 最初の授業で周知する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 金融論 I と金融論 II はセットで受けてほしい。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 322010) 経営戦略論A Management Strategy A	科目区分	時間割 後期金5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 大杉 奉代	関連授業科目	経営戦略論B	
	履修推奨科目	経営組織論A, 経営組織論B	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 本講義は、企業の基本的方向性を設定する経営戦略に焦点をあて、これまでの経営戦略論における論点を提示し、企業の経営戦略に関するさまざまな分析手法について講義を行う。			
授業の目的 本講義は、経営戦略論を理解するための枠組み、概念、理論を学ぶ。また、有効な経営行動の表示、それがなぜ有効なのかの理論的考察も行うと同時にディスカッションを行うための知識を習得しながら、経営戦略論への理解を深める。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この講義の目標は2つあります。 ①経営戦略論の基本的な考え方や理論を理解できている。 ②それを用いて問題を解決するための能力を身につける。			
成績評価の方法と基準 課題の提出・小テスト:40%, 期末試験:60%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【授業の方法】 パワーポイントと板書による講義を行う。</p> <p>【授業計画】 第1回: イントロダクション 第2～3回: 経営戦略とは 第4回: ミッション 第5回: ドメイン 第6回: 環境・資源分析 第7回: 成長ベクトル 第8回: 多角化 第9回: 製品・ポートフォリオ・マネジメント 第10回: 成長戦略の展開 第11回: 業界の構造分析 第12回: 競争の基本戦略 第13回: バリューチェーン 第14回: 競争戦略の展開 第15回: 講義のまとめ</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 <予習> 日頃から新聞やインターネットなどを活用し、企業の経営活動や経営学に関心をもっておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと。 <復習> 定期的に課題レポートを課すので、それに向けた講義内容の理解を深めておくこと。</p>			
教科書・参考書等 教科書: 『経営戦略入門』井上善海・大杉奉代・森宗一著, 中央経済社, 2015年。 参考書: 『7つのステップで考える戦略のトータルバランス』井上善海著, 中央経済社, 2011年 『よくわかる経営戦略論』井上善海・佐久間信夫編著, ミネルヴァ書房, 2008年。 『経営戦略論(新版)』大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著, 有斐閣アルマ, 2006年。			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 進行状況に応じて授業計画を変更することがある。私語など、他の受講者の迷惑になるような行為は慎むこと。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 321040) 原価会計論 Advanced Bookkeeping	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	簿記入門および会計学・経営学関連の授業	
	履修推奨科目	簿記入門	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 車や電気製品の原価はどのように決められるのだろうか？という疑問を持ったことはありませんか？現代では、製造業だけでなく、サービス業においても、原価をマネジメントすることがたいへん重要となっています。 本講義では、原価の計算の仕方、つまり原価計算の基本的な方法を、複式簿記を用いて説明していきます。なぜなら、通常、原価計算は、複式簿記の原理に基づく工業簿記の中で用いられており、この有機的な関連を学習することは、企業を会計的な側面から観察する時に非常に役立つからです。具体的には、工業簿記・原価計算のしくみの基礎とその記帳処理を学習していきます。			
授業の目的 「原価（コスト）」の理解は、日常生活だけでなく経営学やマーケティング、会計学を学んでいく上でも重要となります。なぜなら、全ての活動には「原価（コスト）」が必ず関わってくるからです。したがって、この授業の目的は、「工業簿記と原価計算の基本原則を理解し、実践できる」となります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる。 (2) 製造企業の中で行われる工業簿記のしくみを理解し実践できる。 (3) 基本的な原価計算の理論を理解し計算ができる。			
成績評価の方法と基準 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
[授業の方法] 口述筆記、板書、プリント配布、理解度クイズ			
[授業計画] (第1週) ガイダンス (第2～4週) 複式簿記の基礎 (第5～6週) 企業活動と工業簿記 (第7～11週) 原価の構成要素と記帳処理 (第12～13週) 総合原価計算と記帳処理 (第14・15週) 個別原価計算と記帳処理			
[自習学習の] <原則>毎週、理解度クイズの提出があるので、それを解くことなどを通して、しっかり復習を進めて下さい。 (第1週) この授業の位置づけを理解して下さい。 (第2～4週) 複式簿記の基礎の復習です。専門用語、表への記入の仕方、仕訳、転記、振り替え、決算手続きなど、複式簿記の総復習です。 (第5～6週) 工業簿記・原価計算の目的や流れを復習して下さい。 (第7～11週) 材料費、労務費および経費の詳しい処理を復習して下さい。 (第12～13週) 総合原価計算の原理と計算を復習して下さい。 (第14・15週) 個別原価計算の原理と記帳処理を復習して下さい。			
教科書・参考書等 [教科書] (予定)宮脇秀貴「工業簿記の基礎(三訂版)」セキ株式会社, 2018年 [参考書] 溝口一雄「例解工業簿記」中央経済社、溝口一雄「最新原価計算講義」中央経済社、岡本 清「原価計算」国元書房			
オフィスアワー 毎週水曜日「15:30～17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 必ず予習・復習を行うこと。特に、復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、簿記は積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこられなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。			

ナンバリングコード B3BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322111) 経営学原理 Theory of Business Firm and Management	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 柴田 明 (非常勤講師)	関連授業科目	経営戦略論、経営組織論、現代企業論、経営学史、経営史、その他経営学・会計学関連の科目	
	履修推奨科目	経営学入門	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 経営学や、その主要研究対象である「企業」や「経営」に関する基本的知識を概説する。 特にこの講義では、「新制度派経済学」あるいは「組織の経済学」の観点から、組織、企業境界、戦略、コーポレート・ガバナンス、労務管理におけるインセンティブなどの問題に焦点を当てることで、現代の企業経営における実践的問題と関連させながら経営学の基本概念を概説していく。			
授業の目的 経営学の基本的知識、ならびに経営学の主要な研究対象である「企業」やその「組織」「戦略」の問題など、企業経営の基本的特徴を理論的に理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・経営学や企業経営の基本的知識を習得できる。 ・新聞やニュースで見聞きする現代企業経営問題を理論的に説明できる。 ・現代企業経営が抱える問題に対する実践的解決策を探索できる。 			
成績評価の方法と基準 期末試験or期末レポート (70点) + 講義内課題 (30点) + α (すぐれた意見や質問の提出など)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【授業及び学習の方法】 講義による。 板書orレジュメに沿って講義を進め、参考資料としてパワーポイントを使用する。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 経営学とは何か? 3. 企業はなぜ存在するのか?①コースの見解 4. 企業はなぜ存在するのか?②ウイリアムソンの見解 5. 取引コスト理論と組織形態①基本的組織形態 6. 取引コスト理論と組織形態②中間組織 7. 取引コスト理論と経営戦略①垂直統合戦略 8. 取引コスト理論と経営戦略②水平統合戦略と多国籍化戦略 9. エージェンシー理論とコーポレート・ガバナンス①理論 10. エージェンシー理論とコーポレート・ガバナンス②日本型コーポレート・ガバナンス 11. エージェンシー理論とインセンティブ契約①概要 12. エージェンシー理論とインセンティブ契約②社内労働市場 13. 所有権理論と組織文化①概要 14. 所有権理論と組織文化②パワーと組織文化 15. まとめと今後の展望 <p>※進行状況に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 経営学とは何か、どのような学問かと意識しておくこと。 3-14 参考書①～④を適宜参照しつつ、普段から組織や戦略、ガバナンスなど、企業経営の主要領域について、新聞などを通して関心を持っておき、現象を理論的に解釈することを心がけておくこと。 			
<p>教科書・参考書等 特定の教科書は使用しない。参考書は以下の通り。 ①吉田和夫/大橋昭一監修、深山明/海道ノブチカ/廣瀬幹好編『最新基本経営学用語辞典 [改訂版]』同文館出版、2015年。 ②菊澤研宗著『組織の経済学入門—新制度派経済学アプローチ【改訂版】』有斐閣、2016年。 ③ダウマ/スクルーダー著、丹沢安治ほか訳『組織の経済学入門 [第3版]』文眞堂、2007年。 ④ピコー/ディートル/フランク著、丹沢安治ほか訳『新制度派経済学による組織入門 [第4版] —市場・組織・組織間関係へのアプローチ—』白桃書房、2007年。</p> <p>その他については別途指示する。</p>			

オフィスアワー

非常勤講師による集中講義のため、講義期間中に対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ 進行状況に応じて授業計画を変更することがある。
- ・ 私語など、他の受講生の迷惑になるような行為は慎むこと。場合によっては退出、履修取り消しなどの措置をとる。
- ・ 救済措置には一切応じない。まじめに授業に取り組むこと。

ナンバリングコード B2BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322245) リスクと保険 Introduction to Risk and Insurance	科目区分	時間割 後期水2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目	保険システム論等	
	履修推奨科目	保険システム論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 我々は、様々なリスクに取り囲まれており、それらのリスクに対処する必要がある事はいうまでもない。 本講義では、保険を中心にリスク処理手段についてごく基礎的な内容を概説する。			
授業の目的 リスクおよび保険のごく基礎的な知識を身につけることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
リスクの処理手段に関心をもつことができる。 保険制度の基本的な知識を修得する。			
成績評価の方法と基準 期末試験、およびレポート（該当者のみ）により評価する。 成績評価で秀を目指す者は必ずレポートを提出すること（提出すれば必ず秀になるという意味ではない）。 詳しくは初回の講義において説明するので、納得した上で受講すること。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
口述筆記、板書等 (1) ～(4)リスク及びその類概念 (5) ～(7)リスク・マネジメントの生成と発展 (8) ～(10)保険の仕組み (11)リスク・マネジメントの枠組み (12) ～(13)リスク・コントロール (14)リスク・ファイナンス (15) まとめ 自学自習について 授業中の指示に従い、提示された書籍、新聞記事などを確認すること。 必ず復習しておくこと。 なお、授業計画を変更することがあるので注意されたい。			
教科書・参考書等 教科書：使用しない。 参考書：適宜指示する。			
オフィスアワー 火曜日の4校時。 変更する場合には講義中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 教育効果を高めるために、実際の進捗状況をみながら授業計画を変更することがあるので注意されたい。 講義中には、私語ならびに本講義と関係のない作業をしてはならない。度重なる場合には単位を認定しない。 講義中には携帯・スマートフォン（撮影機能を含む）の電源を切っておくこと。			

ナンバリングコード B2BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322020) 経営組織論A Organization Theory A	科目区分	時間割 前期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目 A/B	経営組織論B、経営戦略論A/B、人的資源管理論	
	履修推奨科目	経営組織論B	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 経営組織のマネジメントにかかわる諸理論を紹介した上で、今日の企業経営におけるマネジメント上の課題について検討する。			
授業の目的 この授業では、組織現象に対するさまざまな研究アプローチや基礎理論にかかわる知識を習得する（学士課程のDP「知識・理解」に対応）。また、それらの知識を活かし、企業活動に関わる組織的な課題を整理し、自己の問題意識と関連づけて探求できるようになることを授業の目的とする（学士課程のDP「問題解決・課題探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
組織のマネジメントに関わる基礎的な理論を理解し、説明することができる。 企業活動に関わる組織的な課題について理論と関連付けて説明を行うことができる。			
成績評価の方法と基準 コメントカード (30%)，期末試験 (70%) により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (組織論とはどのような学問か) 2. 組織を動かす基本設計 3. 組織を動かすメカニズム 4. 効率的に目標を達成する——組織の構造 5. 個人に能力を発揮してもらおう——モチベーションとリーダーシップ 6. ベクトルを揃える 7. より良い意思決定を行う 8. 環境と折り合う 9. 個々人の成長を促す 10. 新たなことを学ぶ 11. 外の力を活かす 12. 組織を変える 13. 事例検討1 14. 事例検討2 15. まとめ <p>進捗状況に合わせ、授業計画を修正する場合がある。</p> <p>【授業および学習の方法】 経営組織のマネジメントにかかわる諸理論について講義する。理論と現実の接合がはかれるよう、適宜、事例の紹介やエクササイズ、映像教材等を使用する。基本的にテキストに沿って進めるので、事前に予習して内容を把握しておくことが望ましい。授業後に参考になった点、質問等のコメントをカードに記入してもらい、回収する。</p>			
教科書・参考書等 鈴木竜太 (2018)『経営組織論 (はじめての経営学)』東洋経済新報社 (税込み2376円/生協にて販売)			
オフィスアワー 開講時にアナウンスする。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 遅刻、私語厳禁。 積極的な質問を歓迎する。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード：322190) マーケティング論A Marketing A	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目	マーケティング論B、流通システム論A, B	
	履修推奨科目		
学習時間 90分×15回 + 学習時間			
授業の概要 本講義は、企業のマーケティング活動に焦点を当て、その論理と実際を理解するものである。企業がマーケティング発想を持つとはどういうことなのか、マーケティング活動（たとえば、市場創造、製品開発、ブランド構築、顧客管理など）はどのように行われるのかといった企業のマーケティング・マネジメントを学ぶ。			
授業の目的 マーケティング・マネジメントを学ぶことによって、マーケティングが世の中でどのような役目をはたしているのか、われわれの生活とどのようなかかわりを持つのか、また現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役にたつのかなどを理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングの考え方と最低限の基本理論が理解できる。 2. マーケティングがわれわれの生活にどのようなかかわりをもつかが理解できる。 3. 現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つかが理解できる。			
成績評価の方法と基準 レポート20%、小テスト30%、期末試験50%により評価する。詳細については第1回目の授業で説明する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回：イントロダクション及びマーケティング発想の経営 第2回：マーケティング論のなりたち 第3回：マーケティング論の基本概念 第4回：戦略的マーケティング 第5回：製品のマネジメント 第6回：価格のマネジメント 第7回：広告のマネジメント 第8回：チャネルのマネジメント 第9回：サプライチェーンのマネジメント 第10回：営業のマネジメント 第11回：顧客関係のマネジメント 第12回：顧客理解のマネジメント 第13回：ブランド構築のマネジメント 第14回：ブランド組織のマネジメント 第15回：企業の社会責任 【自学自習に関するアドバイス】 今回の講義内容について、テキストの各章を事前に読んでおくこと。			
教科書・参考書等 教科書 石井淳蔵・廣田章光（編）『1からのマーケティング第3版』、碩学舎、2009年 参考書 石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文（編）『1からのマーケティング・デザイン』、碩学舎、石井淳蔵『マーケティングを学ぶ』、ちくま新書、2010年。			
オフィスアワー 随時、研究室にて受け付けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講のマナー（私語、遅刻など）を守ること。			

ナンバリングコード B2BSN-badE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322260) 流通システム論A Distribution System Theory A	科目区分	時間割 前期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 badE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 小宮 一高 (非常勤講師)	関連授業科目	流通システム論B, マーケティング論A, B	
	履修推奨科目	流通システム論B, マーケティング論A, B	
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習 (毎回の授業内容の復習と宿題への解答、予習)			
授業の概要 この講義は流通システム論の中の基礎的な内容について解説する。講義内容は前半・中盤・後半と3つの部分に分かれている。講義の前半は、流通の中で重要な役割を果たしている「商業者」について議論する。中盤では、商業構造について議論する。商業構造とは、マクロ的(鳥瞰的)な視点から眺めた際に現れる商業の特徴であり、この議論を通して、わが国の商業的な特徴について理解する。後半では、流通過程における「取引」に注目し、取引の中に現れる「信頼」や「パワー」といった社会的関係から取引を捉える。さらに、その視点を利用して流通系列化や延期一投機の理論について説明する。			
授業の目的 現代社会の流通・商業に関わる現象を、理論な観点から理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における流通・商業者の役割が説明できる ・我が国の商業の特徴を商業構造の観点から説明できる。 ・商業における取引を、社会的関係(信頼関係とパワー関係)の観点から捉えることができる ・延期一投機の観点から、取引を捉えることができる。 			
成績評価の方法と基準 レポート30点, テスト70点, 合計100点で評価する。 レポートは、主にレポートとしての形式が整っていること、文章が読みやすく論旨が明確なこと、内容に独自性があり、興味深い指摘がなされていることについて評価する。テストでは、主に流通システム論を理解する上で不可欠な概念を理解しているかどうか、また、流通システムを理解する上で焦点となる基本的な問いに対して、論理的な記述で答えることができるかどうかについて評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
●授業計画 第1回 流通について: 流通とは何か 第2回 商業者と流通費用①: 商業者とはどのような存在か 第3回 商業者と流通費用②: 流通費用の概念について 第4回 商業者と流通費用③: 商業者の介在と流通費用の節約 第5回 商業構造の広さ: 商業構造の概念と商業構造の広さの決定メカニズム 第6回 商業構造の長さ①: 商業構造の長さの考え方 第7回 商業構造に長さ②: 商業構造の長さの決定メカニズム 第8回 eコマースと流通費用: 流通費用の観点から見たeコマースの発展 第9回 商業における信頼関係: 商業における信頼関係とは何か 第10回 信頼関係構築の難しさ: なぜ信頼関係の構築は難しいのか 第11回 パワー関係の形成: パワー関係はどのように形成されるのか 第12回 生産者による流通系列化①: 流通系列化とは何か 第13回 生産者による流通系列化②: 日本の流通系列化はなぜ弱体化したか 第14回 延期一投機の理論①: 延期型システムについて 第15回 延期一投機の理論②: 延期一投機の理論とは何か、全体のまとめ ●自学自習に関するアドバイス ・授業内容は教科書に沿って進むので、教科書の対応する部分を利用して予習・復習をおこなうこと。 ・毎回、自主的に取り組む論述問題を課すので、それを通して論理的に流通現象を捉える訓練をすること。			
教科書・参考書等 教科書: 高嶋克義『現代商業学 新版』有斐閣アルマ			
オフィスアワー 金曜日3時間目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 積極的に学ぶ姿勢を期待します。			

ナンバリングコード B2BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320303) 会計学総論 Basic Accounting	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目	簿記入門、財務会計論A、財務会計論B、株式会社会計、監査論、原価会計論、管理会計論、原価計算論、コストマネジメント論	
	履修推奨科目	簿記入門、原価会計論、管理会計論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本授業では会計学の基礎を学ぶ。会計学は大きく財務会計と管理会計に分けられるが、本授業では両者の基礎的な領域をカバーする。会計学は、公認会計士や税理士、企業の経理担当者といった会計関係者だけが必要とする学問ではない。経営者（役員）や営業担当者などの企業人、銀行員、証券投資を行う投資家、公務員なども会計の理解は必須である。こうした観点から、会計学専攻を志す学生、それ以外の道を目指す学生の両方を視野に入れて、近年の事例も交えつつ、会計学の基礎を教授する。			
授業の目的 会計学の専門用語や基本的な原理を理解することによって（DPの「知識・理解」）、より専門的な会計学や他の経営関連科目を学ぶための基礎を築き、企業経営や資本市場に関する問題を会計学の観点から探求・解決するための基礎能力を身に付けることが（DPの「問題解決・課題探究能力」）、本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 会計の多様な領域、役割を理解し、的確に説明できる。 2. 会計学の専門用語を短い文章で的確に説明できる。 3. 会計学の基礎となる考え方をやや長い文章で的確に説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験80%、レポート20%によって評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的にテキストに沿って授業を進める。ただし、テキストを超えた説明を行うことがあり、逆に一部を省略することもある。 (授業計画) 第1回：オリエンテーション、会計学を学ぶことの意義、多様な会計の種類 第2回：会計の役割、監査および職業会計人の役割 第3回：利益計算の仕組みとルール 第4回：売上高と売上債権 第5回：売上原価と棚卸資産 第6回：固定資産 第7回：金融活動の資産と損益 第8回：営業上の負債と他人資本 第9回：資本の充実と剰余金の分配 第10回：財務諸表の作成と報告 第11回：連結財務諸表、持分法 第12回：財務諸表分析の基礎と経営管理への活用 第13回：原価計算と管理会計 第14回：経営計画とコントロールのための会計 第15回：経営意思決定のための会計 上記計画は実際の進捗に応じて適宜変更する。特に後半は大幅な変更もあり得る点に注意されたい。 (学習方法) 会計学の授業内容は連続性が高い上に、理解すべき専門用語が非常に多いため、授業後は毎回復習を行うことが重要である。特に序盤で学ぶ利益計算の仕組みとルールについては、十分理解しておかないと以後の授業について来れなくなる可能性が高い。			
教科書・参考書等 【テキスト】 ・桜井久勝、『会計学入門（第4版）』、日本経済新聞出版社 この本がカバーしていない領域についてはレジュメを配布する			

【参考書】

- ・中央経済社編、『会計法規集』、中央経済社
- ・日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編、『会計監査六法 Lite版』、日本公認会計士協会出版局
- ・桜井久勝、『財務会計講義』、中央経済社
- ・櫻井通晴、『管理会計 基礎編』、同文館出版

(いずれも購入は必須ではないが、購入する場合は最新版を推奨する)

オフィスアワー 初回授業時に指定する。ただし、指定時間以外でも、事前連絡があれば随時学習相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義中の私語やスマホ等の使用（カメラ機能の使用を含む）をはじめ、他人の勉学の権利を害する行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳しく対処する。また、成績調査は正規の手続を踏むこと。

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322165) 管理会計論 Management Accounting	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	会計・経営学関連科目	
	履修推奨科目	簿記・会計関連科目	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 マネジメントのための会計である管理会計を初めて学ぶ学生のための授業です。本授業では、管理会計の基本的な概念、技法、考え方などを学習し、さらに経営管理にどのように実践されているかについて考えていきます。			
授業の目的 経営管理に役立つ管理会計の基礎知識を身につけること (DPの「知識・理解」に対応) を目指します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 財務諸表をもとに企業活動を評価できる。 2. 利益管理と原価管理に役立つ原価概念、諸技法を説明できる。 3. 意思決定と業績評価のための管理会計技法を習得できる。 4. 経営管理プロセスで管理会計情報がどのように役立つのかについて説明できる。			
成績評価の方法と基準 レポート (0~10%)、中間テスト (40~50%)、期末テスト (40~50%) の成績などを総合的に評価して最終成績を決定します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 口述筆記、プリント、Power Pointなどを活用して説明します。			
第1回 インTRODクシヨN 【授業の概要と進め方】 第2回 管理会計のフレームワーク 第3回 原価の概念 第4回 標準原価管理① 第5回 標準原価管理② 第6回 財務分析① 第7回 財務分析② 第8回 中間テスト 第9回 利益計画① 第10回 利益計画② 第11回 事業部制会計 第12回 設備投資の経済計算 第13回 ABC/ABM 第14回 原価企画 第15回 品質原価計算 第16回 期末テスト			
教科書・参考書等 【教科書】 高栢 真一編著『管理会計入門ゼミナール』創成社、2012年 (生協の書籍部にて購入) 【参考書】 講義において適宜紹介します。			
オフィスアワー 月曜日3時限目、朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業計画は、授業の開始時点での予定であり、開始後の進捗状況により変更する場合があります。			

ナンバリングコード B3GE0-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331021) 政治学概論 Political Science	科目区分	時間割 後期金5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 大賀 睦夫	関連授業科目	観光と政治	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 学生諸君に政治学の基礎理論を理解してもらうことを目標にしています。ただし、「真であって、かつ自明ではない法則や命題に乏しい」のが政治学です。ですから、具体的事例をとおして理論を学ばなければ役に立つ生きた知識になりません。授業では可能な限り、具体的事例を取り上げて考察します。政治的な問題を扱ったビデオもできるだけ使用します。			
授業の目的 政治を紛争解決の仕事と広く解釈すると、政治問題は家庭内から国際社会まで、いたるところに存在します。政治問題に直面したときに、適切な対応が取れるかどうかは、個人にとっても社会にとっても非常に重要なことです。この授業では、政治問題を政治学的方法によって分析する能力を養います。これによって、政治問題の本質が理解できるようになると思います。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 政治問題に関心をもてるようになる。 2. 政治に科学的考察を加えることができる。 3. 市民としての自覚をもてるようになる。			
成績評価の方法と基準 出席 (10%)、レポート (20%)、期末試験 (70%) によって評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 毎回、政治学の重要なテーマを一つ取り上げて、それに関連した事例を紹介し、理論的問題を解説します。毎回ハンドアウトを配布します。 (1) 導入 (2) 政治とはなにか (3) 状況・制度・組織 (4) 象徴としての事件 (1) (5) 同上 (2) (6) 政治文化 (1) (7) 同上 (2) (8) 認知的不協和と政治 (9) アノミーと政治 (1) (10) 同上 (2) (11) 権力の実体概念・関係概念 (12) リーダシップの型 (13) ソーシャル・キャピタル (14) 歴史の終わり? 文明の衝突? (15) まとめ			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。 推薦図書は、永井陽之助・篠原一『現代政治学入門』有斐閣、1984			
オフィスアワー 金 6			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 時間厳守。授業開始から15分経過後は入室できない(ドアをロックします)。			

ナンバリングコード B2SCL-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332071) グローバル社会概論 グローバル化と社会 Globalization and Society	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B2SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 世界の文化と社会についてこれから勉強していくうえで、予備知識として必ず知っておくべき用語や概念について解説する。それらの用語・概念の歴史的・社会的背景についてもあわせて考察する。			
授業の目的 グローバル社会・経済を学ぶための基礎的・予備的な知識を得る。私たちが生きている世界の現在の状況と、それに至るまでの歴史的な背景を、具体的な事例から理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
世界の国・地域について、具体的にイメージすることができる。世界の言語、文化、社会の幅広い領域について深い関心を持つ。国際的なことならについて問題意識を持ち、自分に関わる問題として考えることができる。講義で扱った基本的な用語や概念について説明できるようになる。			
成績評価の方法と基準 平常点（授業への参加度をミニレポートで評価）20%、中間試験および期末試験80%により、総合的に評価する。毎回出席をとるので欠席しないこと。無断欠席5回で自動的に「不可」となるので注意すること。中間試験・期末試験いずれも必ず受けること。 ※出席してミニレポート用紙に名前を書くだけでは「平常点」は与えられない。必ず意見・感想・質問などを書いて提出すること。 ※中間試験と期末試験どちらか一方でも受けないと単位は与えられない。 ※しかるべき理由（病気・怪我、忌引、大会参加等）で欠席する場合は、証明書等を添えて欠席届を提出すること。就職活動で欠席する場合も、会社説明会等に出席していたことを証明するものを添えて欠席届を提出すること。 ※なお、適正な収容人数を超えた場合、他学部生の受講制限を行う。H29年度以前の入学者で、地域社会システム学科以外の学生（他学科の2年生以上および他学部生）については、受講人数制限を掛ける。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【学習の方法】 授業は必ずノートを取りながら聴く。配布されるプリント等の資料をしっかりと読み、解説された用語・概念をよく理解する。授業時に紹介される参考文献を読む。			
【授業計画】 (1) 世界の国と地域 (2) 世界の国と言語 (3) 言語と文化 (4) 人種と民族 (5) 世界の宗教 (6) 宗教・社会・経済 (7) 政治体制とその歴史 (8) 国家と国民 (9) 中間試験（試験範囲は第1回～第8回） (10) 経済のしくみ (11) 帝国主義と植民地主義 (12) 越境・移動・グローバル化 (13) 南北問題と東西冷戦 (14) ジェンダーとセクシュアリティ (15) メディアと社会			
期末試験（試験範囲は第10回～第15回）			
教科書・参考書等 各教員が随時指定する。			
オフィスアワー 個別の講義内容については各教員に確認すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この講義で扱う用語・概念はいずれもごく基本的なものです。そのつどしっかり習得すること。遅刻、途中退出厳禁。			

ナンバリングコード B3GE0-bdxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332020) 人間論 Theory of Human Nature	科目区分	時間割 後期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 bdxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 斉藤 和也	関連授業科目	ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ文化論、ヨーロッパ社会経済史、近代経済史、文化社会論	
	履修推奨科目	ヨーロッパ思想史	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この講義では、近代資本主義の精神を生み出したヨーロッパの合理主義的思考の起源と特徴を明らかにする。ヨーロッパ思想を生み出した思想的基盤には、古代ギリシアの合理的思考とキリスト教の宗教思想がある。そこで、まず、ギリシア人の合理的思考について概説すると共に、ギリシア人が非合理的要素をどのように合理的枠組みの中に取り込んでいったのか考察する。次に、キリスト教の母体としての古代ユダヤ教の特質について概説し、そこからキリスト教が成立し、やがてそれがカトリック教会として確立していく次第を明らかにする。さらに、近代的人間観の先駆けとなった宗教改革の精神について概説し、プロテスタンティズムと近代資本主義の精神の関連性について考察する。			
授業の目的 ヨーロッパ思想の合理主義的特徴を理解するために、それを生み出した母体としてのギリシア思想とキリスト教思想の内容の理解を深めるとともに、プロテスタンティズムの影響が指摘されるヨーロッパ近代の労働観について考察する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 古代ギリシア文化とユダヤ・キリスト教文化に親しむ。 2. 哲学的・科学的思考を特徴とするギリシアの合理主義について説明することができる。 3. キリスト教の人間理解について記述し説明することができる。 4. ヨーロッパ近代の労働観について説明することができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験(50点)とレポート2回(配点50点)。レポートの課題と提出日は講義の中で通知する。急病などの理由なしに提出が遅れた場合は減点する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
I. ヨーロッパ的精神とギリシア的合理主義(第1～5回) 1. ヨーロッパ的精神と合理主義 2. ギリシア人の合理主義と人間観			
II. キリスト教とヨーロッパ(第6～9回) 1. 旧約聖書とユダヤ教 2. キリスト教の成立と展開 3. キリスト教の人間観			
III. 近代的人間観の成立(第10～15回) 1. 宗教改革の精神 2. 近代資本主義の合理性 3. 近代の労働観			
【授業及び学習の方法】 一方的な知識・情報の提供を避けるために、時々、講義に対する質問や意見を書いてもらい、それに答えるという形で、授業を進めていく。すべての質問に答える時間はないので、内容的に重要な質問に対して、次の時間に回答する。 各回の授業が終わったあとで次回の授業のハンドアウトを配布する。熟読してくると授業内容がよく理解できる。病欠の場合は、教員研究室まで次回のプリントを受け取りにくること。			
教科書・参考書等 ハンドアウトを配布する。			
オフィスアワー 木曜 14:40- 15:30 : 斉藤研究室(経済学部7号館3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の質問は教室で行うか、メールで行ってください。アドレスは最初の講義でお知らせします。			

ナンバリングコード B3SCL-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332230) 日本社会経済史 Economic History of Japanese Society	科目区分	時間割 後期末2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山本 裕	関連授業科目	経済史入門、ヨーロッパ社会経済史、経営史	
	履修推奨科目	経済史入門、ヨーロッパ社会経済史、経営史	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 近現代日本社会経済史の概説を講義する。 その際、 ①経済成長のマクロ的考察にとどまらず、人々の暮らしと経済との相互関係及びその推移を重視する。 ②日本と東アジアとの経済的関係の歴史的推移を重視する。 以上の二つの点に留意して講義を進めていく。			
授業の目的 近現代日本の社会経済史の基礎知識を習得する。習得する上で、経済学・歴史学の方法論をもって、幕末開港から現在に至る時代を考察して、近現代日本の社会と経済の大きな流れに留意していく。 特に、 ①様々な経済現象が人々の暮らしを大きく規定してきたこと。 ②近現代日本の社会経済が東アジアの諸地域と密接に関係してきたことについて理解を深めることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 近現代日本における地域的多様性を説明できる。 2) 一国史的枠組にとどまらず、「アジアの中の日本」・「世界の中の日本」といった、諸国家あるいは諸地域間の関連性の中で近現代日本の社会と経済の歴史を解釈して、具体的に説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験(80点)と、2回の授業レポート(計20点)で成績を判断するが、任意の読書レポートを提出した者には、加点を行う(最大で20点)。また、突発的に授業アンケートを課す可能性があるが、その際、回答者には適宜、若干の可点を行う(優れた意見の提出者には、更に加点する)。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 テキストの内容をより深く理解するためのレジュメを配布する(moodleに毎回のレジュメをアップロードする)。毎回、講義内容について、自筆ノートを作成しまとめなおすことを推奨する(なお、期末試験では、自筆ノートのみ持込可とする)。講義期間中、2回、レポートを課す。 以下の計画に沿って講義を展開する予定だが、履修者諸君の理解度等を勘案し、期待する理解度に到達していないと判断した場合には、より、ゆっくりと時間をかけて講義を行うことで、いくつかの講義単元を行わない可能性があることをあらかじめお断りしておく。 (1) イントロダクション：日本社会経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法 (2) 近世から近代へ：幕末開港と明治維新ー経済から見た幕末・維新时期ー (3)～(4)「産業革命」と伝統的要素ー生産技術と市場制度、近代産業と在来産業ー (5) 日清・日露戦争と対外経済「進出」・植民地経営ーその社会的影響ー (6) 両大戦間期日本の社会と経済(1)：大戦好況・バブルの発生・バブル崩壊後の長期不況が与えた様々な影響 (7) 両大戦間期日本の社会と経済(2)：産業と企業を中心に (8) 両大戦間期日本の社会と経済(3)：人々の生活を中心に (9) 両大戦間期日本の社会と経済(4)：「植民圏」の社会と経済ー台湾・朝鮮・「満洲」ー (10) 戦時期の日本経済と社会(1)：戦時統制経済期の産業と企業 (11) 戦時期の日本経済と社会(2)：日本とアジアの戦時動員ー都市・農村・「植民圏」の生活ー (12) 戦後改革の諸相ー農地改革・労働改革が地域の社会経済にもたらしたものー (13) 高度成長の時代ー地域から見た高度経済成長とアジアを中心とした国際関係の推移ー (14) 高度経済成長の終焉と安定成長、バブルの発生・崩壊ー人々の生活から考えるー (15) 講義の小括 予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について教科書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのかも、事前に各自が把握しておく。復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直ししておく(前述の如く、期末試験には自筆ノートのみ持込可とし、配布資料は持込不可とする)。			

教科書・参考書等

【教科書】宮本又郎編『改訂新版 日本経済史』（放送大学教育振興会、2012年、2700円+TAX）。生協の書籍部にて購入のこと。

各回の講義において参考文献を提示するが、大門正克・安田常雄・天野正子編『近代社会を生きる』（吉川弘文館、2003年、2800円+TAX）、同編『戦後経験を生きる』（吉川弘文館、2003年、2800円+TAX）、岡部牧夫『満州国』（講談社学術文庫、2007年、960円+TAX）武田晴人『新版 日本経済の事件簿—開国からバブル崩壊まで』（日本経済評論社、2009年、3000円+TAX）、沢井実・谷本雅之『日本経済史—近世から現代まで』（有斐閣、2016年、3700円+TAX）は通読を望む。

また、講義において提示する図・写真等については、黒田日出男監修・帝国書院編集部編『図説 日本史通覧』（帝国書院、2017年、930円[税込]）を用いていくこととする。視覚的理解をより一層求めたいと考える受講者は、上記書籍、あるいは、高校生向けの日本史図録・図説等を手許に置いて予習・復習することを推奨する。

オフィスアワー

水曜日6限・7限（ただし、事前にメール等もらえれば、適宜対応する）。

教員のメールアドレスは以下の通り。

yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目は教科書を指定するが、教科書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。

ナンバリングコード B3SCL-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332422) 社会と言語 Society and Language	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目	ヨーロッパ文化論、比較近代化論	
	履修推奨科目	外国語演習、外国語会話、ヨーロッパ社会論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ことばは日々の日常生活のなかでたえず使われているがゆえに、かえって考察の対象となることが少ない。本講義では、ごくありふれたものであるはずのことばという存在を客観的に見つめ直し、そもそもことば（言葉・言語）とは一体何なのかを確認・定義したうえで、言語と社会とがいかに密接な関係にあり、いかに相互に依存し合っているかを考察する。また、世界にはどのような、どれくらいの言語があるかを知り、それぞれの言語が現在どのような状況にあるかをよく理解したうえで、言語の数だけ世界の見方（世界観）がある、すなわち言語が人間の思考や認識になんらかの影響を与えていると考える「言語相対論」について、評価と批判を含め検討を試みる。			
授業の目的 本講義は、いわゆる社会言語学 (sociolinguistics) に関する概論であるが、社会言語学が取り扱うべき研究対象はきわめて多岐にわたり、しかもそれぞれの分野が高度に専門化している。そこで本講義では、社会言語学についてほとんど予備知識がなくても理解することができるよう、言語と民族、言語と性、言語と場面、言語と国家、言語と地理、言語と歴史というふうな、ある程度予備知識のある事項と結びつけながら、言語と社会の関係を考察し、社会における言語の問題について自ら気づくことができるようになる。言語の多様性を知り、世界の見方（世界観）の多様性を知り、さらに言語および世界観の多様性に関連した諸問題を知ることによって、自分とは異なる社会に属する人々に対して、敬意や共感をもって接することができるようになる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会と言語の関係に関する基本的な知見を得ることができる。 2. 世界の諸地域の言語状況を具体的な事例に基づいて理解することができる。 3. 我々が生きる現代社会と言語を結びつけて考察することができ、さらに社会と言語に関する問題を自ら見出し、自ら思考することができる。			
成績評価の方法と基準 授業への参加度 (30%)、中間レポート (30%)、期末試験 (40%) により総合的に評価する。授業への参加度は、授業終了時に提出するリアクション・ペーパーで評価する。中間レポートおよび期末試験の詳細については授業のなかで説明する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1) イントロダクション (この授業の概要、学習の仕方、単位の取り方など) (2) 言語の定義 (3) ことばの要素 (4) 言語の多様性 (1) (5) 言語の多様性 (2) (6) 言語と社会 (1) (7) 言語と社会 (2) (8) 言語と民族 (9) 言語と性 (10) 言語と場面 (11) 言語と国家 (12) 言語と地理 (13) 言語と歴史 (14) 翻訳と言語／翻訳の言語 (15) 補説とまとめ 学期末試験 ※進捗状況の関係でやむを得ず授業計画を変更する場合は授業時に説明する。			
【自学自習】 予習事項がある場合は次の授業までに調べて考えておく。配布される資料をよく読み、また参考文献としてあげられたものはなるべく1冊通して読む。中間レポートを作成し提出する。			

教科書・参考書等

P. トラッドギル、『言語と社会』、土田滋訳、岩波新書、1975年、720円＋税。

エドワード・サピア、『言語』、安藤貞雄訳、岩波文庫、1998年、1130円＋税。

いずれも必ずしも買わなくてかまわないが、図書館で借りるなどして目を通しておくこと。この2冊以外の参考文献については授業時に配布ないし指示する。

オフィスアワー

木曜4限。ただし事前（授業時）に相談すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

外国語や外国の文化・社会に興味・関心のある学生を歓迎します。外国語に堪能である必要はありませんが、単位だけほしいというモチベーションの低い人は途中でついていけなくなるかもしれません。よく考えて履修してください。

ナンバリングコード B2GE0-bdeE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 333191) まちづくり論 Town Planning and Design 観光・景観まちづくり	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2GE0	DP・提供部局 bdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目	瀬戸内地域活性化プロジェクト	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 近年、「まちづくり」という言葉は急速に社会に広まり、一般的な概念として定着してきています。しかし、その概念がカバーする守備範囲は極めて広く、地域経済、環境、政治、福祉、医療、子育て、コミュニティなど、あらゆる分野が「まちづくり」の領域に接合されています。 「まちづくり」という概念はこうした総合性・継続性にこそ大きな特徴があり、ある特定の領域を対象とする既成の学問分野とは一線を画しています。 本講義では、「まちづくり」という概念が有する総合性、あるいは既成の学問知をつなげていく特性を十分に理解したうえで、なぜいま「まちづくり」が求められているのかについて、具体的な事例をもとにしながら講義を進めていきます。 また、本講義では「まちづくり」を一般的概念として総合的に説明するだけでなく、特に「観光」と「景観」という専門的視点から、それぞれに必要なとされる知識や考え方について、理解を深めていきます。			
授業の目的 ①地域の問題から「まちづくり」「観光」を理解する よりよい地域社会へと導く解決策（道筋）として、「まちづくり」と「観光」に求められている社会的役割を理解します。 ②「景観」の価値に対する感性を鍛える これまで茫漠と見ていた外的環境に対して、美や問題点を発見できる感覚を研ぎ澄ます訓練をします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①「まちづくり」と「観光」に求められている社会的役割が説明できる。 ②「景観」の価値に対する感性を鍛え、景観の価値について他人と議論することができる。			
成績評価の方法と基準 レポートおよびテストで成績を評価します。 毎授業でやるリアクションシートで、しっかり書いていけば加点評価していきます。 中間テストを行い、あまりにも成績の悪い学生は単位取得の資格を失います。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的に講義形式をとりますが、適宜学生が発表する機会や質疑の時間を設け、できる限り参加型（ワークショップ形式）の講義とします。			
<序編> (1) 「まちづくり論」ガイダンス（概要と講義スケジュール） (2) 「日本の地域をめぐる諸問題」 (3) 「解決策としての観光まちづくり」 <基礎知識編> (4) 「観光を知る」その1 近代社会と観光の誕生 (5) 「観光を知る」その2 変化する観光とニューツーリズム (6) ワークショップ① (7) 「景観を知る」その1 工場景観と棚田の風景 (8) 「景観を知る」その2 良い景観と悪い景観をめぐって (9) 「景観を知る」その3 景観の価値と捉え方 (10) ワークショップ② (11) 「まちづくりを知る」その1 まちづくり概念の台頭 (12) 「まちづくりを知る」その2 コミュニティデザイン (13) 「まちづくりを知る」その3 世界と日本の創造都市 <結編> (14) ワークショップ③ (15) 「まちづくり論」まとめ			
※第一回の授業ガイダンスは必ず出席してください。 ※中間テストおよび期末テストを予定しています。			

<p>【自学自習に関するアドバイス】</p> <p>4回～6回 観光の歴史に関する情報を調べる。</p> <p>7回～10回 景観に関する情報を調べ、文献を読む。</p> <p>11回～13回 授業で紹介する文献を読む。</p>
<p>教科書・参考書等</p> <p>西村幸夫編「まちづくり学」、中村良夫「風景からのまちづくり」、山崎亮「コミュニティデザイン」など。 テーマによって適宜紹介します。</p>
<p>オフィスアワー 随時、研究室（南3号館3階）にて受け付けます。</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p> <p>受講希望の学生は必ず「デジカメ」（スマホも可）を用意してください。写真を撮影する課題があります。 また、課題等で現地視察等を行う場合には、交通費等が自己負担となることを了承してください。</p>

ナンバリングコード B3SCL-abxE-3N-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332451) 外国語演習 I (英語) Foreign Languages I 外国語演習 I (英語)	科目区分	時間割 後期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 川端 美都子	関連授業科目	Communicative English I-IV, ビジネス英語	
	履修推奨科目	異文化間コミュニケーション論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 英語は必ずしも「外国」で用いる言語なのではなく、日本国内においても、様々なバックグラウンドを持った人々とのコミュニケーション手段の一つとして用いられている。しかし、身近に思える話題ほど、外国語で説明するのは大変難しい(例えば「お雑煮」や「羊羹」を英語で、どのように効果的に説明できるか、考えていただきたい)。本講座では、訪日外国人(観光客を含む)に対して、あるいは外国で日本文化や社会問題などを紹介することを想定しながら、様々な英語表現を学んでいく。自分たちの身近にある事柄・現象を英語で表現することを通して、英語による発信力を養成・強化すると同時に、文化的差異について考えることをねらいとしている。			
授業の目的 本講座では、リスニング、リーディング、スピーキングを組み合わせることで、読解・聴解・発話能力を高める。さらに、「英語」で日本国内の文化(現象)や社会問題について説明することを通して、自分のことばで国際的に身近な内容を発信していくことができるような英語運用能力を養う。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 英語を用いて自分自身のことを効果的に説明することができる (2) 英語を用いて物事の描写(日本国内の道案内や、日本料理の描写を含む)をすることができる (3) 英語で尋ねられていることを的確に理解することができる (4) 英語で尋ねられていることに対して、適切に返答することができる (5) 訪日外国人(観光客)に対して日本文化・社会問題を紹介することを想定して、映像資料を用いながら10-15分程度の英語プレゼンテーションをすることができる			
成績評価の方法と基準 小テスト・課題: 20% 授業貢献: 25% 発表: 25% 期末テスト: 30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業の冒頭で「動画」を基にした聴解演習を行う。その後、教科書で提示された表現を運用しながら、実際に起こり得るさまざまな状況を想定した、実践的練習を実施する。そのために、受講生には毎回予め動画を視聴してくることを課題とする。また、ときおり授業の理解度を試すためにポップクイズ(簡単な小テスト)を実施することもある。			
【授業計画】 第1回 導入・自己紹介 第2回 Unit 1: 道案内 第3回 Unit 3: 外国人を迎える時に使える英語 第4回 Unit 4: 電車の乗り換えの説明 第5回 Unit 5: 物事の描写に使える表現(大学の授業で) 第6回 Unit 6: 賛辞の際の表現 第7回 Unit 7: 自分のことを伝える表現 第8回 Unit 8: パーティーなど社交の場で使える表現 第9回 Unit 9: 物事の描写に使える表現(日本文化の説明) 第10回 Unit 11&12: 日本食について説明することができる表現 第11回 Unit 13: 日本でのアルバイトについて説明できる表現 第12回 Unit 14&15: おすすめの場所を説明する際や買い物で用いる表現 第13回 発表 第14回 発表(予備日) 第15回 まとめ			

<p>【自学自習にかんするアドバイス】 第2回目以降、教科書内の予習範囲を示すので、必ず事前に取り組んでおくこと。また、期末発表に向けて、常に自分の周りの社会や文化現象についてアンテナを張っておき、どのように外国人に英語で説明しようかと考えておくこと。</p>
<p>教科書・参考書等 田地野彰, 石井洋佑, 加藤由崇, 中川浩. (2018). 『ようこそ! ニッポンへ: 映像で学ぶ大学基礎英語 留学生の日本文化体験』朝日出版. ¥2,400+税</p>
<p>オフィスアワー 経済学部3号館3階 川端研究室 月曜: 12時半~14時半</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業時に辞書(電子辞書)を持参すること。 積極的な発言や授業貢献点として高く評価する。 また、授業を正当な理由がないまま4回以上欠席した場合は、単位を認定しない。</p>

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 332453) 外国語演習 I (ドイツ語) Foreign Languages I	科目区分	時間割 後期水4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 佐藤 温子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、基本的なドイツ語の知識をすでに学んでいることを前提にして、現代ドイツ語圏社会における受講者の関心のできるかぎり応える形でテーマおよびテキストを選び、進行する。たとえば新聞、雑誌の記事やインターネット上の動画なども題材にして、歴史・政治・文化的背景なども学びながら、進めて行く。			
授業の目的 ドイツ語の初級文法を修得する。初歩的なドイツ語の読解力を確実に身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・平易なドイツ語の文章が読めるようになる。 ・現代のドイツ語圏社会について知ることができる。 ・ドイツ語検定試験3級に合格できるドイツ語能力を獲得する。 			
成績評価の方法と基準 授業への参加状況が評価の中心になるが、試験の成績も含めて、総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>テキストを分担して読み進めていく。</p> <p>(1) ガイダンス (2)～(15) テキストの読解 (16) 期末試験</p>			
教科書・参考書等 テキスト：未定。受講者と相談後に、テキストを選定するか、適宜、記事や資料をコピーして、配布する。			
辞書（独和辞典）は、初中級者向きであればどれでも構わない。たとえば、『アポロン』（同学社）、『アクセス』（三修社）、『クラウン』（三省堂）、『エクセル』（郁文堂）などから、自分にあった辞書を選ぶこと。			
オフィスアワー 授業後、またはメールで相談 kagawareport@gmail.com			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この授業では、受講者の関心のできるかぎり応える形でテーマやテキストを選ぶので、初回の授業に出席しない者は希望が反映されないことがある。 予習と出席が必須であることは言うまでもない。復習も重要。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 332454) 外国語演習 I (フランス語) Foreign Languages I Apprendre à lire et écrire en français	科目区分	時間割 後期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目	全学共通科目のフランス語 I・II・III	
	履修推奨科目	全学共通科目のフランス語 I・II・III	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (毎回、予習・復習をする必要がある)			
授業の概要 時事フランス語の文章を読みながら、フランス語の読解力、作文能力、聞き取り能力、発音・発話能力を総合的に養えるようにする。 【他の授業科目との関連】 全学共通科目フランス語 I・II・IIIは、基礎文法を習得する授業です。この演習では、さらに実践的で高度なフランス語の運用能力を養えるようにします。			
授業の目的 全学共通科目で学習した初修外国語としてのフランス語の能力を、総合的に伸ばす。 ・時事的な内容の文章を読む。 ・すでに学習した文法項目を復習する。 ・まだ学んでいない文法項目 (大過去、間接話法、条件法過去など) を学習する。 ・フランス語圏という「他者の視点」を通じて、現代社会を相対化できる客観的視野と思考能力を養う。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
基礎的な文法 (大過去、間接話法、条件法過去など) を使って書かれた、時事的な内容の文章を読める。 学習した文法や表現を用いて、短い文章を書けるようになる。 フランス語圏の社会や文化について説明できる。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席と参加) 30%、中間テスト30%、期末テスト40%により総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 *教科書に添って、時事的なフランス語の文章を精読する。 ・精読する＝音源に合わせて文章を声に出して読み上げる練習をしつつ、文法や表現をきちんと把握しながら、文章の意味を考える。 ・一文ずつ読み上げ、日本語で訳を考えてもらう。 *各單元ごとに、文章に出てくる構文についての練習問題がある。この練習を続けることにより、フランス語による表現能力を養う。 *各受講者の進度により、教科書以外の時事的な文章を読んだり、より実践的な作文練習をする機会を設けたい。			
【自学自習の方法】 《まず音源を使って、聞き取りと発音の練習を★繰り返し★繰り返し★行うこと!》 ・予習：単語を調べ、教科書をノートに写して訳を考える。 ・参考書も用いて学習を続けることが望ましい。 ・復習：日本語訳を見ずともフランス語の文章の意味が分かるようになるまで、繰り返し読む。			
【授業計画】 第1回～第15回 ・第1回目：第1課「モン・サンミッシェル 世紀の大潮」★予習をしてくること★ ・1回の授業で1課を終わらせることを目指すが、受講者の進度に合わせる。 ・文法事項を学習し、知識を補うため、必要に応じてハンドアウトを用意する。			

教科書・参考書等

【教科書】

- 1 井上美穂、2011『改訂版 アンフォvol.5 フランス語でニュースを読む』駿河台出版社
- 2 久保田剛史ほか『フランス語動詞60—活用・用法・索引』朝日出版社

【参考書】

西村牧夫、1999年『解説がくわしいフランス文法問題集』、白水社
その他、講義中に随時、紹介する。

【辞書】

必ず授業に持参すること。

- ・より高度なフランス語能力の習得を目指す場合や留学志望者は『ロワイヤル仏和中辞典 第二版』を推奨する。
- ・仏仏辞典Le Nouveau Petit Robert de la langue française (電子辞書「Ex-Word (フランス語版)」にも掲載*)も合わせて使えば、語彙力は飛躍的に伸ばせる。

*この講義の受講者は、電子辞書はフランス語版を購入すると良い(英語版ではなく)。

オフィスアワー 研究室は南3号館3階。

オフィス・アワー：講義中に指示する。予めメールなどで連絡すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

全学共通科目フランス語を6単位既得した学生が対象。

フランス語の構文になれていない人も、この授業で文章を読む方法を身につけましょう。毎回、予習・復習をして臨む気持ちのある人は、誰でも歓迎します。

この授業は「演習」である。積極的に参加できない学生や授業の進行を妨げる場合、学期途中でも履修を断る場合がある。

ナンバリングコード B3SCL-abxE-3N-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332452) 外国語演習 I (中国語) Foreign Languages I	科目区分	時間割 後期金3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	外国語演習 II (中国語) 外国語会話 (中国語)	
	履修推奨科目	アジア社会論、アジア経済論、アジア文化論	
学習時間 授業90分×15回+自学自習			
授業の概要 中国語学習1年半以上のレベルを対象に、映画・ドラマ・バラエティ番組・ドキュメンタリーなどを題材とし、日本語との置き換えを念頭に、よく使用されるフレーズを学習する。最初は日本語の音声に中国語字幕が付されているものから始め、後半は音声も中国語の字幕付き映像を使用する。対象とする教材は教員が指示した候補の中から自由に選ぶことができる。			
授業の目的 既に学習した語法や語彙が、実際の場面でどのように使われているかを確認しながら、中国語の言い回しや、スピードに慣れる。(DPの「言語運用能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 放送や映像で使用されている中国語のうち頻出する表現に慣れる。 2. 日本語でよく使うフレーズは中国語でどう表現されるかを理解する。 3. 映像の背景となる中華圏の習慣について理解する。 4. 中国語の自然なスピードで文を読むことができる。 5. 頻出する漢字の発音は辞書を頼らずに発音できる。			
成績評価の方法と基準 割り当てられた部分の準備と授業時間内の各種練習の成果による。最終試験(口頭表現中心、試験期間の試験は行わない)の比率は40%。平常のエクササイズと課題の得点は60%で、その得点に出席率をかけて判定する。また5回欠席した学生は受講したものとみなさない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1週 担当グループの編成(特別履修プログラムの学生とその他の学生をペアにします)と以後の準備方法の説明 第2週～第6週 音声、中国語字幕の教材による練習 第7週 ここまでの表現のエクササイズ 第8週～第14週 音声、字幕とも中国語の教材による練習 第15週 後半の表現のエクササイズ			
学習の方法 担当部分についての資料作成 ①セリフ及び字幕を簡体字で筆写し、ピンインを付ける。なぜ字幕のような中国語になるかについて、既習の語法を復習して、説明できるように準備する(前半) 字幕を簡体字で筆写し、ピンインを付し、訳をつける。(後半) ②各授業後指示されたフレーズについてまとめて、次週までに中国語⇄日本語の転換ができるようにする。 (なお、受講者の数や構成によって指示する予習内容が変わることがある)			
教科書・参考書等 教科書は不要だが、現代中国語辞典(光生館) 中日辞典(小学館) レベルの辞書は必要。電子辞書でも可。			
オフィスアワー 月曜 5時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 共通教育の中国語4単位以上修得している学生が履修できるが、2年前期まで継続して履修していた方が望ましい。(グローバル人材プログラムの学生は上記単位数の限りではない) 字幕の多くは繁体字で付いており、簡体字、繁体字双方に慣れてもらう。 「高学年教養科目」として履修する場合も、2年次以上で上記条件を満たした者に限る。 (中国語検定3級、HSK4級以上を既に取得している1年生は受講を認める場合があるので、直接担当教員に照会すること)			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332455) 外国語演習 I (韓国語) Foreign Languages I	科目区分	時間割 後期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目	初修外国語「韓国語」	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 2年次までの初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で培った韓国語の基礎を確認しながら、中級レベルの韓国語力を身につける。			
授業の目的 2年次までの初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に引き続き、韓国語の基礎を確実に身に付けるために、既習内容の確認をしながら、さらに上の中級レベルの韓国語の力を獲得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
語彙・文法において中級レベル、具体的には、ハングル能力検定4級に必ず合格し得る韓国語力を身につける。更にはその韓国語力を3級レベルへと伸ばす素地を養う。			
成績評価の方法と基準 ハングル能力検定4級に必ず合格し得る韓国語力を合格レベルとし、毎回の単語テスト(ハングル能力検定試験5級、4級レベルの全単語について、毎週、冒頭に単語テストを行う)、中間テスト、期末テスト(4級レベルを主とし、3級レベルを含む)、出席、授業参加態度から判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回～第6回 ハングル能力検定試験5級練習問題、過去問題 第7回～第13回 ハングル能力検定試験4級練習問題、過去問題 第14回～第15回 ハングル能力検定試験3級過去問題 ハングル能力検定試験5級、4級レベルの全単語について、毎週、冒頭に単語テストを行う。 ハングル能力検定試験の過去問題などをテキストとし、それに沿って学び進め、そのあいまいに、学んだ文法事項や表現を旅行会話フレーズなどで発話する作業や作文作業を織り込む。 1年生の初修外国語「韓国語」で学んだ基礎文法を確認しながら、ハングル検定試験という資格試験のなかで「設問」として出てくる韓国語に取り組みという形式で授業を進めるが、これは、1年生の初修外国語「韓国語」で学んだ基礎文法をもう一度改めて教えるという意味ではない。特に、4年生で、1年次・2年次で学んだ内容をすっかり忘れてしまっているという人が履修しても授業についてこれないので、留意すること。 毎回の単語テストの準備は学生にとって面倒であるようだが、単語力なくして資格試験に合格することはできない。このことを十分に理解している学生だけが履修すること。 参考までに、2017年度は当初14名の学生が履修したが、最後まで授業に出席し、期末試験まで受験した学生は7名であった。この7名の学生のなかには、ちょうどハングル検定試験を個人的に受験したいと思っていたという履修動機の学生が複数名含まれ、7名には必ずハングル検定試験4級に合格できると見込まれる韓国語の実力がついた。また、そのうち1名は受講中に3級を受験し合格した。			
教科書・参考書等 初回授業で指示する。			
オフィスアワー 毎回の授業後に質問・相談を受け付けるほか、研究室で受け付ける。ただし会議等で不在にする場合もあるので、事前に申し込み約束をすること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 初修外国語の韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修済みであること。 従って、本授業は1年次生の履修は認めない。			

ナンバリングコード B3GE0-becE-30-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 331075) エコツーリズム論 Eco-Tourism	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	とくになし	
	履修推奨科目	とくになし	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 エコツーリズムやグリーン・ツーリズムだけでなく、農山漁村地域・多自然地域での活性化についても全般的に講義する。先進事例を中心に活性化手法（地域づくり手法）について説明する。また、教員が携わっているフィールド（地域）での取組みとその手法についても解説する。 授業中に受講生の考えを発表する機会を作るので、能動的な姿勢での受講が求められる。単位認定の条件として、受講生は各自でまち歩き、グリーン・ツーリズム、エコツーリズムのツアーに参加すること。			
授業の目的 農山漁村地域の活性化に必要な知識を習得する。グリーン・ツーリズム、エコツーリズム、アートによる地域活性化等の事例を知ると同時に、地域活性化に関わる研究方法や研究の実際についても理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域活性化の現状についての知識を習得できる。 ・グリーン・ツーリズム、エコツーリズム、アートによる地域活性化等の事例についての知識を習得できる。 ・地域活性化に関わる研究方法や研究の実際についても理解できる。 			
成績評価の方法と基準 ①受講生各自で参加したまち歩き、グリーン・ツーリズム、エコツーリズムツアーについてのレポート（形式自由。800字程度） ②講義で説明するインタープリテーションに則ったレポート（3～4枚程度） ③期末テスト			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 地域活性化とは 第2回 地域づくり手法 第3回 経済的地域活性化 第4回 インタープリテーション 第5回 エコツーリズム論 第6回 グリーン・ツーリズム論 第7回 アクション・リサーチ 第8回 プロセス・コンサルテーション 第9回 里山資本主義 第10回 里海資本論 第11回 瀬戸内地域活性化プロジェクトの事例1 第12回 瀬戸内地域活性化プロジェクトの事例2 第13回 移住・定住 第14回 アートによる活性化 第15回 「まなざし」 ※進捗状況によって内容が変更することがある。 ※自学自習は授業の前後に適宜指示する。			
教科書・参考書等 とくになし。参考文献は講義時に適宜紹介する。			
オフィスアワー 木曜1限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 地域活性化、とくに農山漁村、多自然地域での活性化に興味のある学生の受講を希望する。			